

友情は国境を超えて

3月に最後の「お話朝会」の機会をいただきました。今日は暦の上では「啓蟄」なので前回に引き続き二十四節季の話題から始めてみたいと思っています。

今回は先月まで熱戦が繰り広げられていた平昌オリンピックについて、羽生選手の活躍やカーリング女子チームの活躍などに触れながら、私が最も印象的だったスピードスケートの小平奈緒選手と韓国のイ・サンファ選手の出来事から、実は本校も韓国の大邱教育大学付設小学校と姉妹校であることについて話す予定です。

宮城教育大学と大邱教育大学校との交流は2000年に始まり2001年には学術交流協定を締結。その後相互交流が活発に行われるようになりました。そして、その縁で2004年10月2日から当時の附属小敷見隆生校長を団長とする使節団（附属小6名と事務係長1名）の計8名での韓国派遣となった理由です。

写真上は全員での記念写真。中は敷見校長先生とカン・チョンキル校長先生が「姉妹結縁協定書」を締結し、固い握手を交わしているところです。

協定書には①情報交換②作品交流③教員の相互交流、そして④児童生徒交流の4点が示されていました。もちろん私たちの中で韓国語に堪能な職員はいなかったのですが、当時大邱に留学生として派遣されていた日本人学生がいたことや通訳の教授がいたことで、交渉や情報交換は極めてスムーズに進みました。

授業も見学させていただき、韓国は英語教育とICT教育に非常に力を入れていたので、その様子が非常に印象的でした。写真下は英語での寸劇の様子です。

その後、残念ながら複雑な国際情勢もあり、当時目指した交流活動は行われなくなっている、と当時からずっと在籍している堀之内先生の解説でした。

平昌オリンピックでの小平選手とイ・サンファ選手の姿を見ていて、国と国を超えてお互いが尊敬できる友人であることは、本当に素晴らしいことだと思います。宮城教育大学の縁でたくさんの方の外国の方がおいでになる附属小の子どもたち。いつか、外国の友達とも素晴らしい友情を築けるような、そんな国際感覚豊かな人になることを願って、子どもたちの前に立ってみたいと思います。

